

② 多分、抑制は神経を介したものだと思われます。卵管運動を考える時に、神経の影響を除外して考える事は出来ないと思います。

回答 (慈恵医大) 落合 和彦

① PG による自動運動の停止は、膜電位の変化と考えている。神経系に関する検索は今回は行わなかった。

② 自動運動による張力は20mg 前後であり、サポニン処理後の Ca^{++} による張力よりは小さかった。

③ 自動運動を検索した症例は30例、70標本であり、約70%の再現性を認めた。

66. Endometriosis に対する保存的療法の遠隔成績からみた治療法の選択—再発率と妊孕性回復の面から—
(大阪医大)

飯塚 信行, 佐野 隆, 土肥由美子
土居庄之介, 植木 実, 杉本 修

目的: Endometriosis (Em) のホルモン療法として教室では偽妊娠 (P) 療法を行い、最近ではダナゾール (D) 療法を実施して、これらの安全かつより有効な使用法を検討しているが、今回それぞれの症例が多数になり、一定期間を経たので、P および D 療法ならびにそれらの保存的手術併用の遠隔成績を検索し、とくに再発率および妊孕性回復の面から、適切な治療法の選択を考察した。

方法: Em 患者の P 療法後94例 (手術併用38例) と D 療法後78例 (手術併用45例) を対象とし、それらの再発および妊娠率について検索した。なお効果判定は治療終了時の自覚症状と他覚的所見 (圧痛、腫瘍、子宮可動性) の改善を総合して評価した。

成績: ① 各ホルモン療法における無効例は、P 療法が94例中12例 (12.8%) で、D 療法が78例中3例 (3.8%) であった。② 再発率は、P 療法が82例中25例 (30.4%) で、その手術併用群 (24.3%) は単独群 (35.6%) より低値であった。進行期別ではⅢ期が41.4%と最も高く、治療期間が短いほど再発は高い傾向を示した。一方 D 療法では75例中13例 (17.3%) の再発率で P 療法より低く、またその手術併用群が (11.4%) が単独群 (25.8%) より低かった。しかしⅢ期 D 療法単独では 55.6% と高率であった。③ 妊娠率は P 療法35.6% (手術併用42.3%)、D 療法23.9% (同25%) で、ともに手術併用が妊娠率を高めていた。なお単独群では全例一年以内であり、手術併用により妊娠の可能性が一年以上あることが判明した。

以上の成績から、Endometriosis の早期例には、妊娠

率の高い P 療法が、また自覚症状が強く、ある程度進行した例には、無効率や再発率の低い D 療法を選ぶのが良いと思われる。なお両療法とも、病巣の広がった進行例においては、保存手術の積極的な併用が、より効果的と考える。

質問 (松戸市立病院) 田巻 勇次

無効率、再発率共に Danazol 群が低く、更に妊娠率の比較においても、偽妊娠群19例中5例、Danazol 群18例中4例と差がみられないにもかかわらず、内膜症の治療に偽妊娠療法を優先させるという理由について。

回答 (大阪医大) 飯塚 信行

御指摘のとおり、単独療法のみにては差がみられないが、手術併用群にて差をみとめる。特に早期例については偽妊娠療法が有効と思われる。

回答 (大阪医大) 植木 実

我々は first choice として偽妊娠法がよいと言ったのではなく、軽症のものには偽妊娠法を、症状が強く中等症のものには Danazol がよいと結論しました。

質問 (警友総合病院) 鈴木 健治

① 保存療法のみとの比較はどうか。

② 薬物療法に手術療法を行つた症例の手術適応は何か (例えば薬物療法の無効なものに行われたか)。

回答 (大阪医大) 飯塚 信行

① 保存手術単独による成績は有効率90.3%、再発率25.8%、妊娠率は38.1%です。

② 手術をしやすくする為の術前投与、および病巣残存に対する術後投与を含みます。

質問、追加 (九州大) 永田 行博

私達の成績でも偽妊娠療法の妊娠率がダナゾール療法のそれよりも高いでしたが、訂正妊娠率では36%、42%でダナゾール療法が高い結果を得ています。しかし有意の差があるとは言えませんでした。

① Stage はどの分類でしょうか。

② 無効例とは副作用による中止症例も含まれていますか。

回答 (大阪医大) 飯塚 信行

① ラパロスコピーをし得た例に関しては杉本分類を使用し、それ以外は軽症、中等症、重症と分けました。

② 副作用に投与した例は対象に含めていません。

67. 妊娠・分娩子宮に対する PGE_2 , $\text{PGF}_{2\alpha}$, PGI_2 , DHAS の収縮制御作用

(奈良県立医大)

高山 辰男, 小坂井秀宣, 石橋 尚武